

<第68回調査>

2015年01月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2015年01月13日(火)13:00~2015年01月20日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は911件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

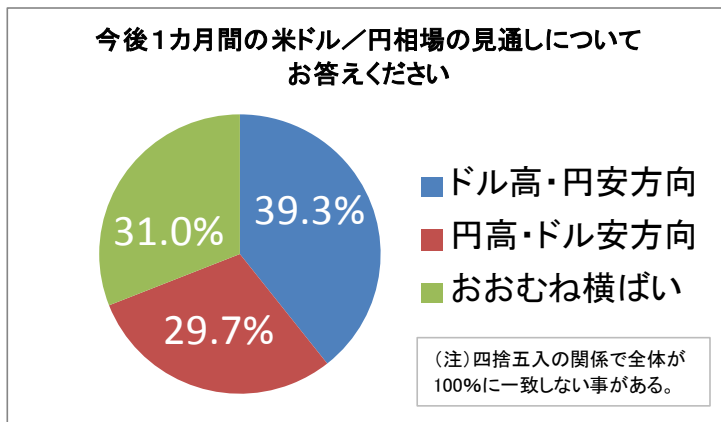
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第68回調査結果略報：ユーロ弱気見通しが根強い】

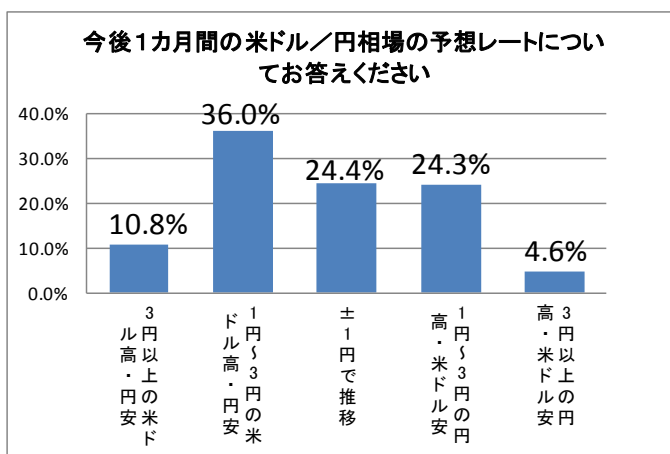
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が39.3%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は29.7%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+9.6%ポイントとなり前回(+16.9%ポイント)からプラス幅が縮小した。DIは19カ月連続のドル強気予想となっているものの、3カ月ぶりにひと桁となった。調査期間中の米ドル/円相場は、118円台後半まで上昇した後、一時115.837円まで値を下げたが、その後は堅調な主要国株価や日銀の追加緩和期待を背景に、再び118円台へ切り返した。116円割れの水準では底堅さを見せたとはいえ、原油安が続き、主要国株価も冴えないためか、FX投資家の見方が3つに割れてしまった模様。※過去の米ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が36.0%と最も多く、「±1円で推移」が24.4%、「1円～3円の円高・米ドル安」が24.3%とほぼ横並びとなった。「3円以上の米ドル高・円安」は10.8%、「3円以上の円高・米ドル安」は4.6%に留まった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安側にやや傾いてはいるものの、中心部分のボリュームが大きく、回答が三分された問1の結果と整合的である。下げたものの下値は堅い、とはいえ戻りも強くない、という状況下で、狭いレンジ内での動きを予想するFX投資家が多いようだ。

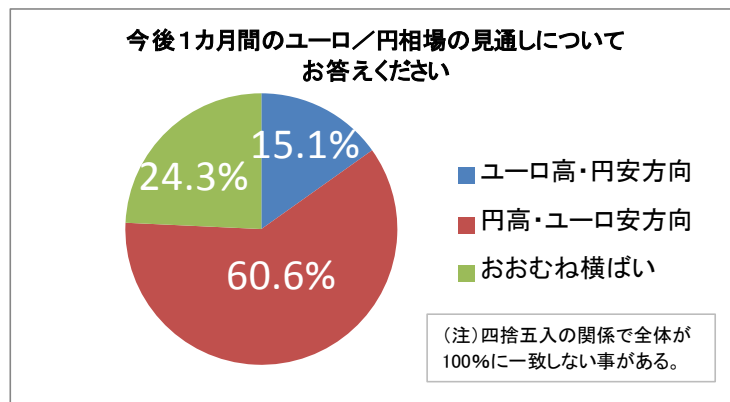


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

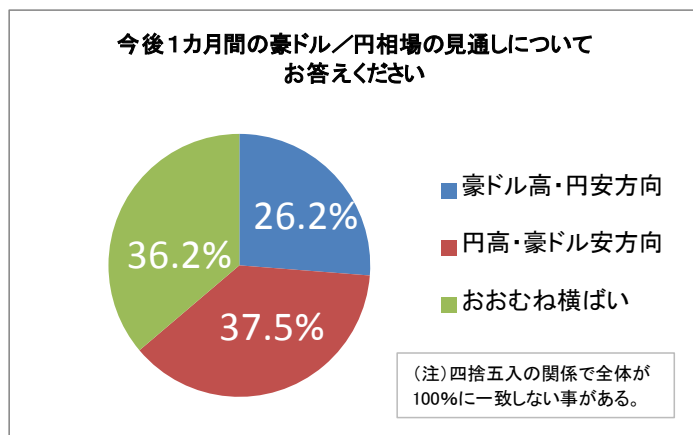
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が15.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が60.6%であった。この結果、「ユーロ円予想DIは-45.5%ポイント」となり、2012年5月(-59.8)以来の大幅なマイナスDIとなった。調査期間中のユーロ/円は、欧州中銀(ECB)が22日の理事会で国債買入を含む追加緩和を行うのでは、との思惑が広がる中で140円台から134円台まで大きく値を下げた。ギリシャの政局不安なども広がる中でこの先もさらにユーロ安は続くのでは、とみるFX投資家は多かったようだ。
 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が26.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は37.5%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は-11.3%ポイントと前回の-16.5%ポイントからマイナスを僅かに縮めた。調査期間中の豪ドル/円相場は、94円台前半まで下値を切り下げるも、すぐに反発。総じて95円台から97円ちょうど前後でのレンジ相場となった。原油など商品価格が軟調な状態で、中国景気の減速懸念が強い中、豪ドル高・円安方向を見込むFX投資家は増える様子は見せなかった。ただし、一旦94円台の底堅さを確認したことで、これ以上の円高・豪ドル安を見込む層が減り、横ばい予想が増えたものと考えられる。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

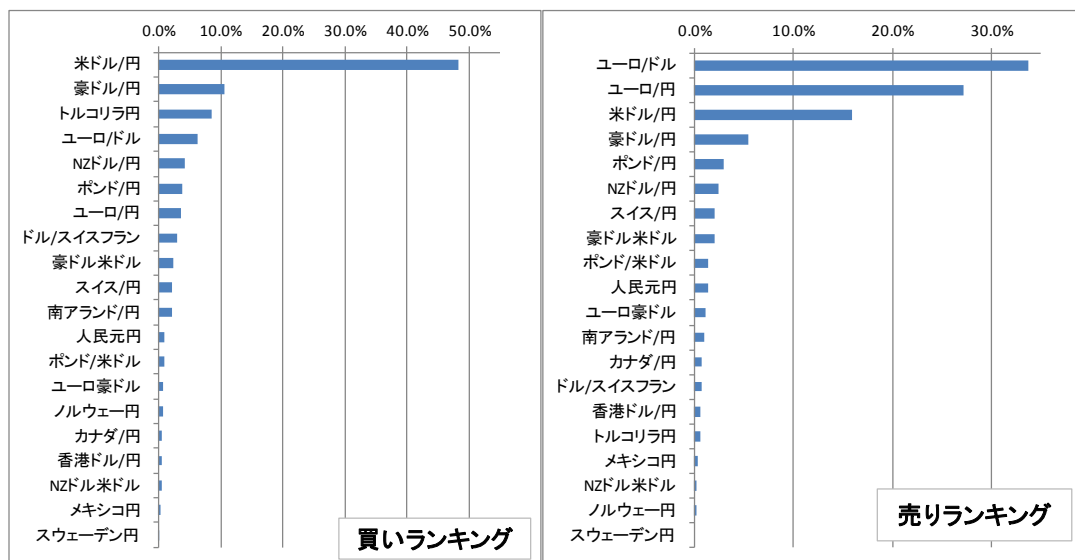


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、米ドル/円(48.2%)が他を圧倒。以下2位豪ドル/円(10.6%)、3位トルコリラ/円(8.5%)、4位ユーロ/ドル(6.3%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(33.7%)、2位ユーロ/円(27.2%)、3位米ドル/円(15.9%)、4位豪ドル/円(5.5%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円の1位は27カ月連続と最長記録を更新中で、2位の豪ドル/円も27カ月連続だ。11月10日から新たに外為どっとコムで取引が始まったトルコリラ/円は15日に一時50円を下回ったタイミングで、かえって買われるなど、依然として人気が高かった。高金利通貨は人気が高く、下がったところでは買いに入りたいFX投資家が多い様子が窺われた。また、「売り」に関しては、通貨ペアというよりは「ユーロ売り」に注目が集まったと言える。ECBの緩和期待や、ギリシャの政局不安など、ユーロを売る手掛かりは多く、対ドル・対円ともにユーロを売りたいとするFX投資家は多かったようだ。

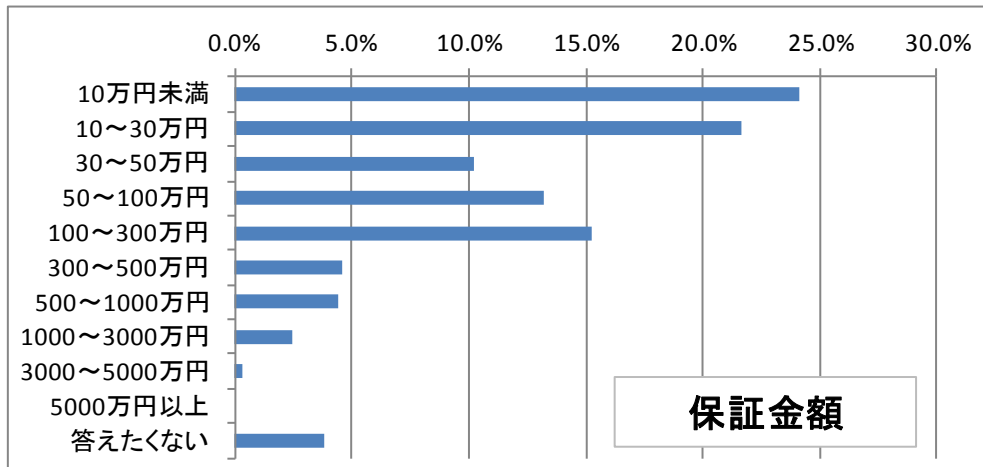


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

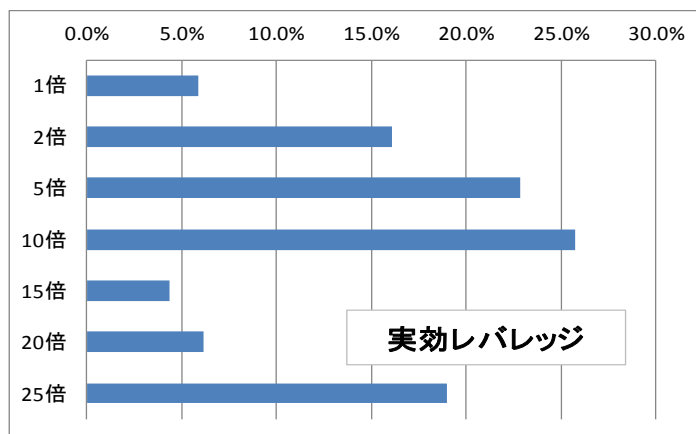
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.1%と最も多く、以下「10～30万円(21.6%)」、「100～300万円(15.3%)」、「50～100万円(13.2%)」、「30～50万円(10.2%)」と続いた。順位については前回から変動はなく、また回答割合にも大きな変化は見られなかった。調査期間中の為替相場は、円高が進んだものの、一服後は再び円売り優勢に転換した。一部の通貨を除き、大きな方向感が出ず、保証金の額を増減させようとする動きは出にくかったものとする。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が25.7%と最も多く、ほとんど差がなく「5倍」が22.8%と続き、以下「25倍」が19.0%、「2倍」が16.1%、「20倍」が6.1%となった。10倍以下の合算割合は前回の69.0%から70.5%と一段と増加し、今回の調査に回答を寄せた個人投資家の平均実効レバレッジも10.7倍と前回の10.9倍から低下している。調査期間中の為替相場を俯瞰すると、大きな方向感はないものの値幅は大きめで、急激な動きになることも多かった。FX投資家に自然とレバレッジをわずかでも抑える心理が広がっている可能性がある。

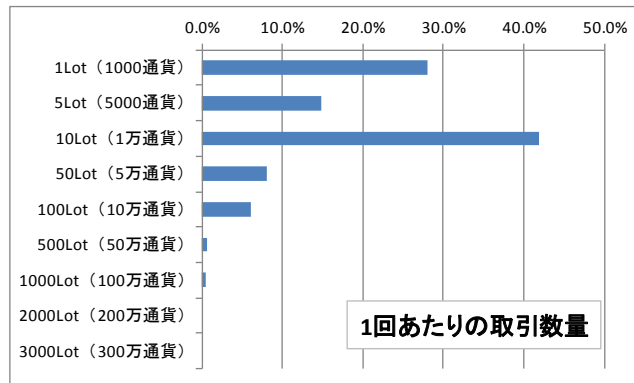


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

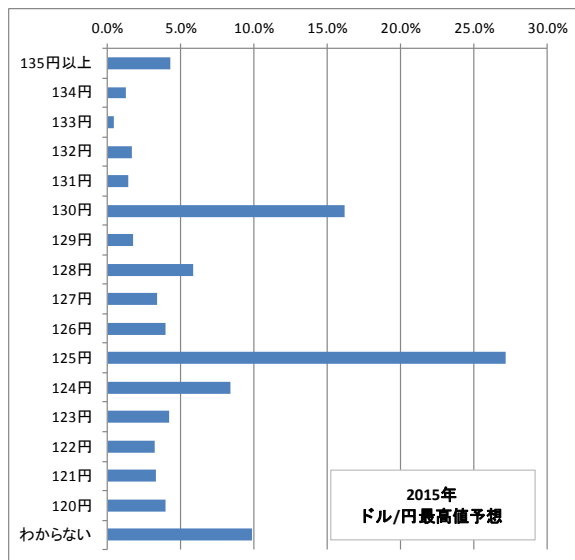
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が41.8%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が28.0%、「5Lot(5000通貨)」が14.8%、「50Lot(5万通貨)」が8.1%、「100Lot(10万通貨)」が6.1%と続いた。10Lot(1万通貨)以下の合算割合は84.6%と、前回の81.5%から一段と増加した。問7で示された低レバレッジ化に加え、本問で示されたように「数量が抑え気味となっている状況」から、FX投資家の中にもリスクを抑えようとする様子が確認出来る。



問9: 2015年を通して、ドル/円“最高値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ) また、下のコメント欄に、その理由をお書きください。

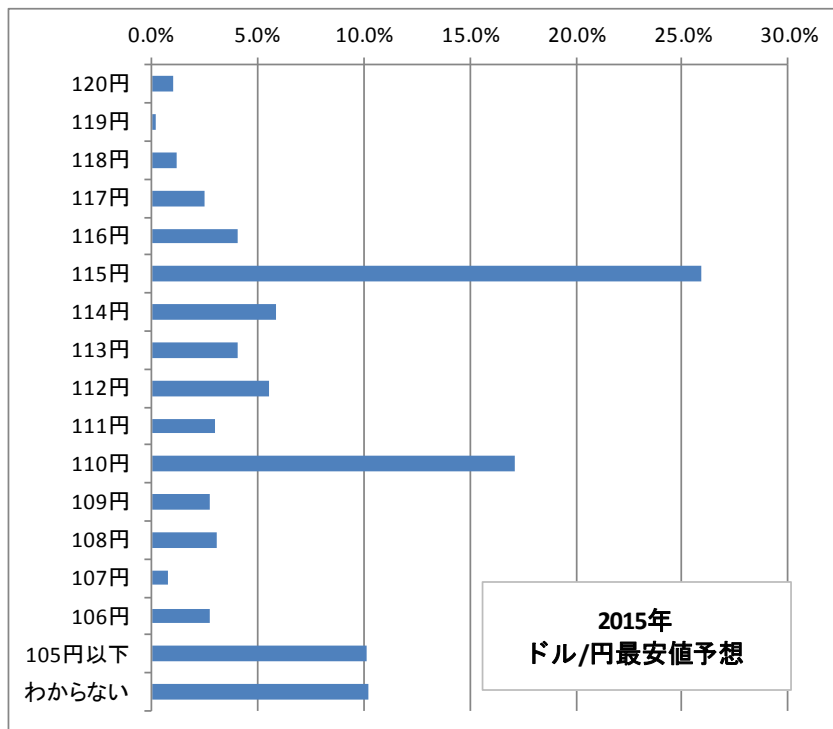
今月の特別質問項目として「2015年を通して、ドル/円“最高値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)また、下のコメント欄に、その理由をお書きください」と尋ねたところ、「125円」が27.1%と最も多いものの、「130円」が16.1%、「124円」が8.3%と続いた。米国の利上げ期待や日本の追加緩和期待を背景とする「日米の金利差拡大」を理由に、2014年の高値121.847円(12月8日)を突破したら、節目の125円や130円まで上昇するのでは、と見るFX投資家が目立った。ただし、125円を超えると「円安が行き過ぎており、円買い介入が入るのでは」とのコメントも散見されるなど、過度な円安を警戒する回答も目立った。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

**問10: 2015年を通して、ドル/円“最安値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)
また、下のコメント欄に、その理由をお書きください。**

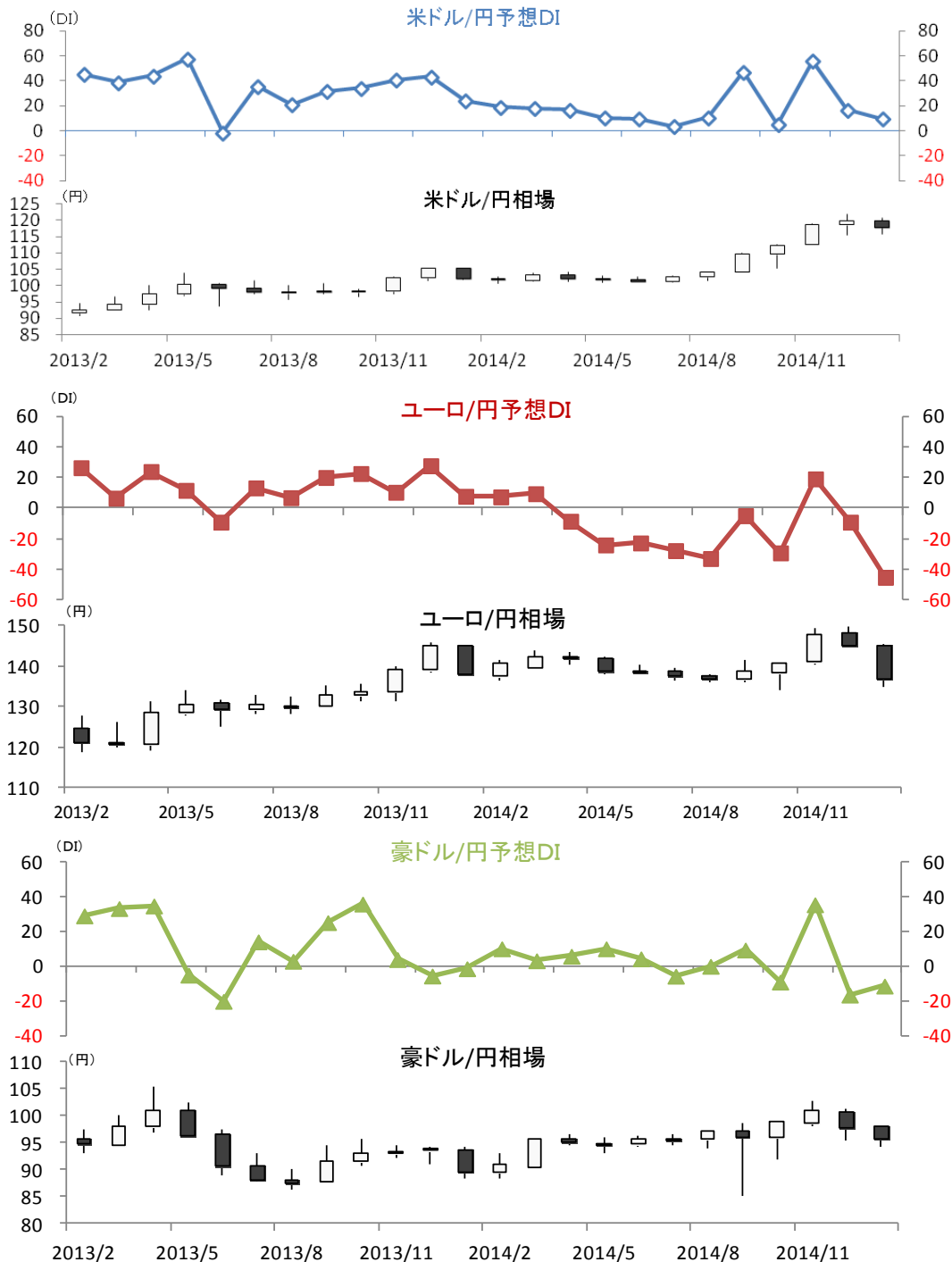
今月のもうひとつの特別質問項目として「2015年を通して、ドル/円“最安値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)また、下のコメント欄に、その理由をお書きください」と尋ねたところ、「115円」とする回答割合が25.9%と最も多く、「110円」が17.1%、「105円以下」が10.1%と続いた。原油価格の下落やギリシャ問題など、海外のリスク要因を理由に下げることはあっても、日本の金融政策などを受けて「115円辺りでは買い支えられるのではないか」とするコメントが目立った。また、105円以下の下落を予想したFX投資家に関しては、理由として「アベノミクスの失敗」を挙げるコメントも散見された。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第68回目となりました。調査開始から5年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

| | | 米ドル/円 | | | ユーロ/円 | | | 豪ドル/円 | | |
|-------|-------|-------|------|------|-------|------|-------|-------|------|-------|
| | | 米ドル高 | 米ドル安 | DI | ユーロ高 | ユーロ安 | DI | 豪ドル高 | 豪ドル安 | DI |
| 2013年 | 2月 | 60.0 | 14.7 | 45.3 | 50.1 | 23.9 | 26.2 | 48.6 | 19.4 | 29.2 |
| | 3月 | 55.5 | 16.6 | 38.9 | 37.2 | 30.9 | 6.3 | 53.0 | 19.6 | 33.4 |
| | 4月 | 61.4 | 17.4 | 44.0 | 49.5 | 25.8 | 23.7 | 56.1 | 21.2 | 34.9 |
| | 5月 | 70.5 | 12.7 | 57.8 | 37.3 | 25.9 | 11.4 | 27.7 | 32.7 | -5.0 |
| | 6月 | 37.5 | 38.8 | -1.3 | 31.4 | 40.8 | -9.4 | 28.2 | 48.3 | -20.1 |
| | 7月 | 52.3 | 16.6 | 35.7 | 37.3 | 24.3 | 13.0 | 38.4 | 24.2 | 14.2 |
| | 8月 | 43.7 | 22.7 | 21.0 | 34.1 | 27.5 | 6.6 | 34.8 | 31.8 | 3.0 |
| | 9月 | 49.8 | 18.1 | 31.7 | 40.8 | 21.0 | 19.8 | 46.5 | 21.2 | 25.3 |
| | 10月 | 54.8 | 20.6 | 34.2 | 40.8 | 18.4 | 22.4 | 53.1 | 17.1 | 36.0 |
| | 11月 | 53.2 | 12.5 | 40.7 | 34.8 | 24.7 | 10.1 | 31.8 | 27.8 | 4.0 |
| | 12月 | 59.5 | 16.1 | 43.4 | 48.2 | 20.7 | 27.5 | 27.3 | 32.8 | -5.5 |
| | 2014年 | 1月 | 47.2 | 23.1 | 24.1 | 37.2 | 29.7 | 7.5 | 28.1 | 29.4 |
| 2月 | | 41.7 | 22.5 | 19.2 | 35.3 | 28.2 | 7.1 | 36.5 | 26.3 | 10.2 |
| 3月 | | 41.9 | 24.0 | 17.9 | 38.7 | 29.5 | 9.2 | 34.8 | 31.5 | 3.3 |
| 4月 | | 41.4 | 24.6 | 16.8 | 25.7 | 34.5 | -8.8 | 35.4 | 29.5 | 5.9 |
| 5月 | | 33.9 | 23.5 | 10.4 | 19.7 | 44.0 | -24.3 | 34.2 | 24.0 | 10.2 |
| 6月 | | 31.1 | 21.7 | 9.4 | 20.1 | 43.1 | -23.0 | 30.4 | 26.0 | 4.4 |
| 7月 | | 27.9 | 24.4 | 3.5 | 17.8 | 45.8 | -28.0 | 26.7 | 32.3 | -5.6 |
| 8月 | | 32.6 | 21.8 | 10.8 | 14.7 | 47.9 | -33.2 | 27.8 | 27.7 | 0.1 |
| 9月 | | 64.8 | 17.6 | 47.2 | 28.0 | 33.2 | -5.2 | 36.0 | 26.5 | 9.5 |
| 10月 | | 39.4 | 34.4 | 5.0 | 18.3 | 47.8 | -29.5 | 27.1 | 36.1 | -9.0 |
| 11月 | | 70.0 | 14.2 | 55.8 | 43.0 | 24.1 | 18.9 | 54.0 | 18.4 | 35.6 |
| 12月 | | 48.9 | 32.0 | 16.9 | 28.8 | 38.2 | -9.4 | 26.9 | 43.4 | -16.5 |
| 2015年 | 1月 | 39.3 | 29.7 | 9.6 | 15.1 | 60.6 | -45.5 | 26.2 | 37.5 | -11.3 |

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com